

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4792400030		
法人名	株式会社ベストビジネスコミュニケーション		
事業所名	認知症対応型グループホーム結の郷		
所在地	沖縄県中頭郡北谷町吉原1180-1		
自己評価作成日	令和4年12月7日	評価結果市町村受理日	令和5年6月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=4792400030-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階		
訪問調査日	令和5年1月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は親切で家庭にいたるような雰囲気の中、職員と入居者様とのおしゃべりを楽しんだりくつろいでテレビを見たりしています。体操、脳トレ、家事手伝い、外へお出かけ等気分転換をはかり認知症が悪化しないように支援しています。
住宅街にある3階建ての民家を改修し、入居者様はリハビリを兼ねての階段上りや、ホームエレベーターを利用して3階の居室へ移動している。畳敷きの部屋や床の間等、自宅にいたるような環境の中、入居者様は沖縄芝居をYouTubeで鑑賞したり、草花や野菜等が栽培されているベランダに椅子に腰掛でのんびり過ごしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

3階建ての民家を改修し、3階は各居室、1階は駐車場、2階は共有空間で広い居間兼食堂、台所や食堂、浴室など家庭的な造りになっており、居間兼食堂の縁側からは庭に植えた桜の木も見える。事業所の開設当初に現在の管理者が事業所周辺の住宅を1軒1軒挨拶に回ったこともあり、開設10年目の現在も地域住民との関係は良好で、普段の散歩の時に挨拶を交わしたり、果物などの差し入れがある。事業所の理念は開設当初に代表者の思いが込められて作成され、「利用者一人一人の尊厳を守る」など7項目を掲げ、利用者に合ったより良い介護サービスの提供に努めている。食事は事業所で3食とも調理し、利用者は野菜の下ごしらえや調理に参加し、居間兼食堂でホットプレートを囲みながら焼きそばやチーズタッカルビなどを調理して利用者の食欲を引き出す工夫をしたり、行事食にはケーキやオードブルを事業所で手作りするなど食事を楽しむことができるような工夫もしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり、深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティング時や職員がケアで悩んだ時に理念を基に話し合い理解を深め共有しています。	理念は事業所開設時に作成され、「経営理念」として7項目を掲げて職員の詰め所や共用空間など職員がいつでも目に入るような場所に掲示している。「利用者一人一人の尊厳を守る」に沿って、管理者と職員は利用者の思いを尊重し利用者自身のペースに合わせて支援を行うように意識している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	少しづつコロナが落ち着いてきているので近所の方から果物の差し入れを頂いたり、コミュニケーションが増えてきました。	事業所の開設当初に現在の管理者が事業所周辺の住宅を1軒1軒挨拶に回ったこともあり、開設10年目の現在も地域住民との関係は良好で、普段の散歩の時に挨拶を交わしたり、数力所から果物などの差し入れがある。自治会にも加入しておりコロナ禍で行事への参加は自粛しているが、子ども会の道じゅね一の演舞や地域のボランティアからも事業所に連絡がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症関連機関の連絡会に参加。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルスの影響もあり運営推進会議の集まりが難しく電話や書面での報告をしています。ホームの活動状況報告、ヒヤリハット報告を行い意見、助言をいただいています。	新型コロナウイルス感染症の影響で令和4年度は5月・8月・11月の3回、すべて書面開催となり、構成員は利用者、家族、町役場担当者、社会福祉協議会、民生委員、自治会長の参加が確認できた。報告書は管理者が構成員に直接手渡し、構成員からの意見は電話やメールなどでもらっている。議事録は事業所内にファイリングし閲覧できるようにしている。	運営推進会議はおおむね2ヶ月に1回以上開催が必須となっているため、年6回の定期的な会議の実施が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築ように取り組んでいる	北谷町役場担当者と連絡を取り合い施設の状況などを報告し連絡を取り合っています。	運営推進会議の構成員に町役場担当者が参加し、定期的に情報交換を行っている。今年度は利用者がひとり歩きで事業所から離れたことがあったため、町役場担当者に相談し福祉課高齢者福祉係が行っている認知症高齢者等見守り・SOSネットワーク事業に事前登録をした。その他にも問題が起きた場合は町役場担当者と連携をとり問題解決に至っている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	YouTubeや外部研修を活用し、勉強会を行っています。	事業所は身体拘束をしない方針で、身体拘束等の適正化のための指針が整備され、3ヶ月に1回、事業所内で委員会を開催し、運営推進会議でも報告している。また、職員の研修も定期的に行われており、「不適切なケアの具体例」や「身体拘束・高齢者虐待についてのアンケート」を実施し集計結果についての意見会を開催している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	YouTubeを活用し施設内でも勉強会を行っています。管理者は職員が利用者に対して言葉使い、行動制限が行われていないか気になるときは話合うようにしている。	身体拘束をしないケアの実践とともに虐待の防止の徹底に関する研修が定期的開催されている。利用者が外泊から事業所に帰ってきた際の異変に職員が気づき、町担当者と連携を図って迅速かつ適切な対応をしている。日々のケアの中でも職員同士で声をかけ合い職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響しないように努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	YouTubeや外部研修を活用し、勉強会を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には契約書、重要事項説明書で説明を行っている。ご家族ともいつでも気軽に連絡が取れその都度不安や疑問がないか確認しています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関入口に意見箱を設置。ご家族様からは来所持やメール、電話などで聞いています。	利用者からの要望や意見は日頃のケアの中から聞き取る機会が多く、食事を増やしてほしいとの要望やスプーンの大きさについてなど細かいことに丁寧に対応している。家族とはLINEなどのコミュニケーションアプリを活用し、事業所からは利用者の日頃の様子写真を送るなど家族との連絡が取りやすいように工夫している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表は人事考課による個人面談を年1回実施している。	職員は日々の業務の中で管理者やリーダー、副リーダーに意見を伝えている。職員からはコロナ禍での業務内容の変更や車いすの購入などの意見があり反映されている。新規の利用者の受け入れの際にも職員に入居前に利用者の情報を確認してもらい情報共有するなど事業所にとって大事な決定に関しても職員意見が反映できるような環境になっている。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表は人事考課による個人面談を行い評価を実施し給与面に反映しています。本人の希望する休日、有給休暇の希望を取り組みながら勤務調整をしています。	法人の就業規則があり、職場におけるハラスメント防止の方針やマニュアルが整備され、ハラスメントに関する職員への研修の実施もされている。職員の定期的な健康診断の実施や年次有給休暇の取得ができています。また、希望する研修への参加も可能で職員が向上心をもてるような職場環境の整備に努めている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表は、職員一人一人の話を聞いてメンタルケアを行っています。施設内で職員育成の取り組みに対して研修を行い教育体制を整えるつくりを行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列のデイサービスの職員と情報交換を行って質の向上させています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人へは日々の場面で意見や要望を確認し安心した生活ができるように努めています。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とは管理者と来所持、電話、メールなどで意見や要望を確認し安心した生活ができるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族からの情報、本人の生活状況、主治医からの情報などを職員と情報共有を行い支援を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はゆったりとした時間をともに過ごしコミュニケーションをとり信頼関係づくりを行っています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルス感染防止のため面会制限をしているので本人、家族の寂しさが軽減できるように日々の生活の様子を動画や写真が送られ本人にも見せています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染状況をみながら外出し、本人の馴染みの場所に行ったり安心できるように努めています。	入居前からの友人から現在も電話がきて会話ができるように支援したり、利用者が入居前からの習慣であった神宮へのお参りに現在も定期的に外出している。また、教員をしていた利用者が書いた書画を事業所の床の間に飾り、利用者が詠んだ琉歌が書かれた歌碑が建てられている公園への外出など利用者のこれまでの生活歴を尊重する支援をしている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格を理解し席の配置、トラブルがみられる方は職員が間にはいり関係を作り工夫をしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や退去になっても医療機関、転所先に情報提供を行い電話、メールで状況確認をとっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様とは日々の生活の中でしぐさや思いの把握に努め職員と情報共有をしています。	日々のケアの中で利用者の思いや意向を聞きとり、言葉で出しづらい利用者の思いや意向の把握は表情やしぐさ、家族からの聞き取りで把握するように努めている。本人の思いや意向に対して個別の介護計画のサービス内容に組み込み取り入れるなど利用者への思いや意向が日々の支援に反映できるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	継続した入居生活を送るため一人ひとりに応じた過ごし方を職員間で情報共有し把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態に応じて必要であれば他機関の協力を得ながら支援しています。例えば骨折や病気で退院後訪問看護と連携しホームでの生活が送れるように支援しています。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	リーダーを中心にケアの状況をモニタリングし職員に意見を確認している。介護計画は家族本人に意見を聞き理解を得ています。	本人・家族の意向を確認して介護計画を作成し、長期目標を1年、短期目標を6ヶ月に設定しモニタリングを半年に1回実施している。介護計画作成後は職員に声かけ個別ファイルで確認できるようにしている。介護認定更新時の他に、利用者の状態変化時などその都度職員からの情報も聞き取り介護計画の変更を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護記録を記入し、状況の変化があれば家族に意向を確認しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診は家族ができない時は職員が同行、薬の受け取り、入退院時の同行を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者と散歩しながら地域の方とあいさつを交わしています。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの方は入居前からのかかりつけ医を変えず受診しています。主治医との相談が必要な時は職員も同行し相談助言を頂いています。	かかりつけ医を継続している利用者は4名で、5名の方は、訪問医療を利用している。かかりつけ医への受診の際は、家族が対応している。情報提供については、SNSを活用し施設での情報を家族と共有している。状態変化時等、必要な場合は、職員も同行し医師の助言を得ている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化時や定期受診時の報告は常に情報を共有しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人の状態の報告をおこない、入院中は新型コロナウイルス感染予防の為面会できないので病棟看護師、相談員に電話し状態把握に努めています。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、状況が変化した時は終末期などを想定し話し合いを行い家族の意向に沿うケアを実施している。	これまでに3件の看取りを行った。看取りの時期になった際に、玄関近くの応接室にスペースを確保しベッドを設置して、家族の付き添いが可能になるように工夫した。看取り後は、家族からの好評価を得ることができた。又、職員と訪問看護事業者とカンファレンスを行い、看取りの振り返りを実施した。	
34	(15)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルに沿って職員間と話し合いを行っている。	緊急時のマニュアルについて、フローチャートを作成し職員間で共有している。訪問看護の看護師より応急手当や初期対応について学ぶ機会を設けている。ヒヤリハット・事故報告について発生時に記載し運営推進委員会で報告を行っている。利用者のエスケープについて改善策として町のSOSネットワークに登録した。	
35	(16)	○災害や感染対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。又、感染症の予防やまん延防止の為に委員会の開催や指針を整備し、研修及び訓練を定期的実施している。	年2回避難訓練を行っています	10月に昼間想定、12月に夜間想定防災訓練を実施した。実施前には、地域住民等外部の参加協力を依頼した。備蓄については、マスク・フェイスシート・ガウン等感染対策用の備品や、オムツ・食材を保管し管理している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄、入浴時の羞恥心も配慮した言葉かけや対応を心掛けて対応しています。居室に本人がいる時は基本閉めています。	理念には、「利用者一人一人の尊厳を守る」と記載されており、職員は日々理念に沿った支援を意識している。排泄時や入浴時等、プライバシーの保持について居室内やカーテンを閉めるなどの配慮を行っている。声掛けについては、職員同士で声を掛け合い、適切な対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に耳を傾けまたはしぐさで確認し状態に合わせた対応するように努める。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴は時間や曜日を決めています気分、体調に合わせて変更しています。運動を毎日行っていますが本人の気分に合わせています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事の時はいつもと違うおしゃれ着をきてお化粧をして参加しています。毎朝、鏡をみて髪を整えたり結んでいます。		
40	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる方は一緒にキッチンの片付けをしたりもしのしっぽ取りを行っています。行事の時はオーdbl形式で食べたいものを自ら選んで食べれるようにしています。	昼食・夕食の献立は利用者の状況に応じて管理者が作成している。調理については調理・清掃担当のパート職員を配置している。朝食は、冷蔵庫にある材料を確認して担当職員が調理し提供している。正月等の行事食を提供したり、利用者の食欲低下がみられる場合は、ホットプレート等を活用した焼きそば等のメニューを提供し食事を楽しむ雰囲気づくりを行っている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分量はその都度チェックしています。いつでも飲めるように飲み物を近くに置いたり、飲みたいものがあれば準備できるように支援します。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施。個々に合わせた準備や支援を行っています。		
43	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はトイレで排泄できるように声掛けを行ったり、おむつ交換が必要な方でも我慢している場合があるので体調に合わせてできるだけ2時間置きのトイレ誘導を行っています。	排泄支援については、トイレへの誘導を基本としている。希望により、居室にポータブルトイレを用意している利用者もいる。利用者一人一人の排泄パターンを把握するために、チェックシートを活用し定期的なトイレへの誘導を実施することにより、自立に向けた支援を実施している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品などを飲んだり、運動をしたりして便秘予防に努めています。		
45	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3-4回は基本としていますが、いつでも希望があれば入れるようにしています。拒否がある場合は金分転換を図ったり職員を変えたりして工夫をしています。ワセリンやボディクリームを塗布し皮膚の保護や乾燥しないようにしています。	基本の入浴日は決めているが、利用者の希望に合わせた入浴支援を実施している。2階の浴室を活用しているが、居室のある3階にもシャワー室があり、夜間や早朝の希望には、シャワー室で対応している。シャワー室には、トイレが設置されているが、しきりにカーテンを設けて、同時に利用する際のプライバシーを守る環境を整備している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事の摂取時間や起床時間は本人のペースに合わせて生活支援をしています。しっかりと眠れるように適度な運動と静かな環境作りを工夫しています。		
47	(21)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の副作用、注意点がある場合は申し送り用紙に記入し情報の共有をしています。職員も定期的受診や訪問診療の時もできるだけ付き添い情報把握に努めています。内服時もスタッフ同志確認し合い誤薬防止に努めています。	利用者一人一人の服薬情報については、ファイリングを行い、職員間で情報共有を行っている。変更のある際には、申し送り用紙への記入により情報共有を図っている。服薬手順については、マニュアルを作成し、ダブルチェック体制で対応している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々のできることを活かしながら家事手伝いを行っていただいたり、YouTubeで昔の懐メロや野球を見たり楽しめるように支援しています。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	園庭の手入れや散歩をしたり病院受診帰り等本人が必要なものを一緒に買いに行ったり馴染みの場所までドライブしたりしています。	入居前に神社への参拝を習慣としていた利用者に対しては、職員が同行し参拝を継続している。病院受診に職員が同行する場合は、帰りに必要物品の買い物や自宅周辺などの馴染みの場所に出かけるなどの支援を行っている。外出が難しい場合は、近隣の散歩や庭の手入れなど、戸外に出られる支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを持っている方は、希望があれば一緒に買い物に行ったりしています		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	県外や海外に家族がいる方もいるので気軽に電話できるようにしています。コロナウイルスの蔓延に伴い、面会制限をかける時もありまので動画や写真撮影をして家族に送ったりしてその都度状況を伝えるように支援しています		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	認知症状の低下により、周辺症状の悪化(大声や怒り)がある方も居るのでトラブル回避の為に静かなキッチンでゆっくりくつろぎながら食事の作る音やにおいて生活感を取り入れ入居者様が落ち着いて過ごせるように支援しています。	一般の民間住宅を改修してグループホームに活用しており、床の間やホール、応接室、リビングが2階にある。広い空間をソファやテーブル等を状況に合わせて配置し、利用者一人一人がくつろげる場所が確保されている。キッチンも広く、利用者が食器の準備や片付けを行うスペースが確保されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	TVが見れる場所2か所設置し野球が見たい人・歌番組が見たい人等自然と気が合う入居者同士過ごす環境を工夫しています。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族には入居時本人の馴染みのものを持ち込んで安心できる環境作りを心がけています。家族写真を壁に貼ったり本人が過ごしやすい居室作りを工夫しています。	各居室には、電動ベッド・タンス・クーラー・カーテンが備えられている。利用者の状況に応じ、テレビや加湿器を導入している。各居室には、家族の写真や、好きな歌手のポर्टレートを飾ったり、利用者一人一人が、居心地よく過ごせる工夫を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の好きな活動やできる事を継続してできるように工夫しています。フロアも動きやすいようにレイアウトしてます。		

目標達成計画

作成日: 令和 5年 4月 10日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4(3)	新型コロナウイルス感染症の影響で令和4年度3回、すべて書面での開催となっている。2ヶ月に1回以上開催が必須となっているが行われていない。	年6回の会議の開催実施、新型コロナ、インフルエンザ感染が落ちついている状況の時は感染対策を行い、委員が参加し施設内状況をみていただきながら会議の開催を行う。	地域の一員である関係者の皆さんには施設の状況をみていただきながら報告し、取り組みを見ていただけるようにしていく。	12ヶ月
2	35(16)	災害対策	夜間は職員一人体制なので夜間想定訓練を繰り返し行う。	夜間想定訓練を繰り返し行い夜勤者が慌てずに行動できるように備えていく。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。